

独立自尊の社会・世界に
貢献する人財を育成する



株式会社ナガセ

2024年3月期 決算説明会資料

2024年5月10日

株式会社 **ナガセ** 一人財育成企業

東進ハイスクール
東進衛星予備校
早稲田塾

でてこい、未来のリーダーたち。
四谷大塚

 木村塾

 イマスイミングスクール
イマスポ・スクール
東進ビジネススクール
TD TOSHIN DIGITAL UNIVERSITY

目次

1

会社概要

P. 2

2

業績振り返り / 業績予想

P. 5

3

Appendix.

P. 26

1. 会社概要

株式会社 **ナガセ** 一人財育成企業

東進ハイスクール
東進衛星予備校

早稲田塾

でてこい。未来のリーダーたち。

四谷大塚



ITマシニングスクール
ITマシホ-スクール

木村塾

東進ビジネススクール

TD TOSHIN
DIGITAL
UNIVERSITY

事業概観

企業理念「独立自尊の社会・世界に貢献する人財を育成する」

生徒数 約**37万人**

全国3,000拠点
民間最大の教育機関



でてこい。未来のリーダーたち。

四谷大塚
でてこい。未来のリーダーたち。
四谷大塚 NET

中学受験
小学生 約3.2万人

大学受験高校生 約12万人

社会人

大学生

AIリーダー研修
語学・ビジネススキル研修
東進ビジネススクール



大学生～社会人約7.2万人

東進こども英語塾



清瀬ひかり幼稚園

幼児

小学生

中学生

東進ハイスクール中学部
東進中学NET

東進オンライン学校

スイミングスクール約10万人



おおはし ゆい
大橋悠依選手
2021年東京五輪
金メダル二冠



ほんだ ともる
本多灯選手
2021年東京五輪
銀メダル

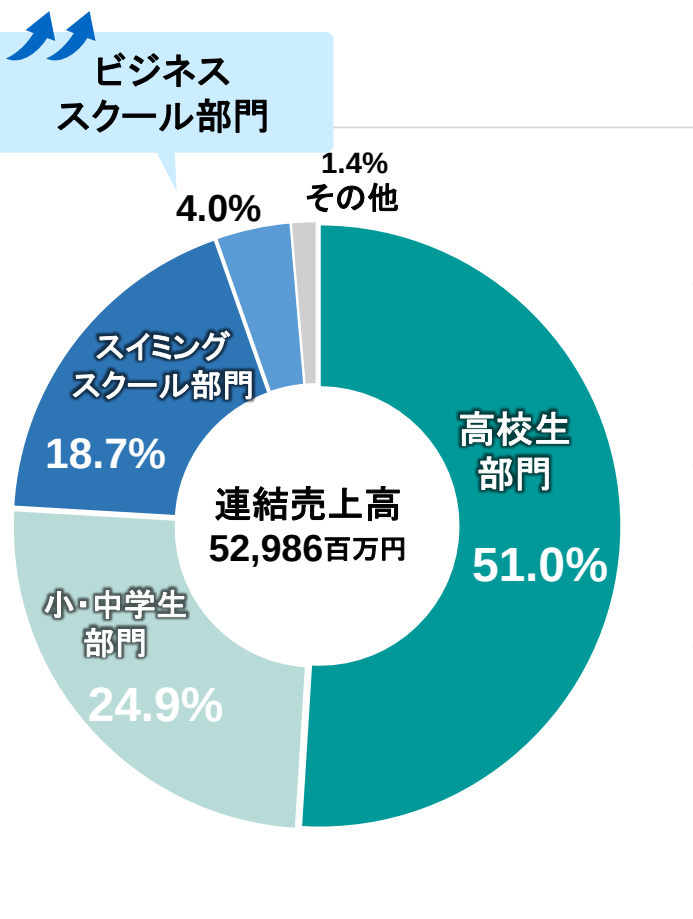


いりえ りょうすけ
入江陵介
2012年ロンドン五輪
銀メダル

※2024年4月現役引退

各事業セグメントの概要

セグメント別の売上構成比(2024年3月期)



- 1** 高校生 **東進ハイスクール** **東進衛星予備校**  **早稲田塾**
- 2** 小・中学生 でてこい、未来のリーダーたち。 **四谷大塚**  **東進中学NET**  **小・中学生指導 木村塾**
- 3** スイミングスクール  **イトマスイミングスクール**  **イトマスポ-スクール**
- 4** ビジネススクール (AI・DX領域) **東進ビジネススクール** 

2. 業績振り返り / 業績予想

株式会社 **ナガセ** 一人財育成企業

東進ハイスクール
東進衛星予備校

早稲田塾

でてこい。未来のリーダーたち。
四谷大塚



ITマシニングスクール
ITマシホーテスクール

木村塾

東進ビジネススクール

TD TOSHIN
DIGITAL
UNIVERSITY

2024年3月期の連結業績概況

★：過去最高

(単位:百万円)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
2024年3月期 (当期)	★ 52,986		4,538		4,323		2,602	
2023年3月期 (前期)	52,354		5,369		5,071		4,000	
前年比 (%)	+631	+1.2%	△831	△15.5%	△748	△14.8%	△1,398	△35.0%

- 売上高は、前年比+631百万円(1.2%増)となり、**当社過去最高実績を更新しました。**
 - ①小・中学生部門の増収 1,641百万円 (ヒューマレッジ加入による1,675百万円の増収)
 - ②ビジネススクール部門の増収 483百万円 (企業向けIT・DX講座の大口受注増収)
 - ③高校生部門の減収 △1,602百万円 (前期末・夏期募集期に新規入学者数が前年を下回った影響による減収)
- 経費面では、前年比+1,463百万円(3.1%増)となりました。このうちヒューマレッジ加入(のれん含む)による増加を除く、既存部分では△463百万円(1.0%減)となりました。
- 既存部分の経費では、上期は、①全国统一テストのTV広告などによる広告宣伝費+434百万円、②新規校舎等に係る物件費+200百万円、③合宿、セミナー等イベント再開の費用+226百万円など戦略経費の増加があり、前年比+903百万円増となりましたが、下期に、広告宣伝費、臨時人件費など費用対効果を検証して前年比△1,366百万円の削減を実施、通期では前年比△463百万円に抑えました。
- 利益面では、高校生部門の減収を主因として、各利益とも昨年を下回りました。なお、去年は研修施設売却による特別利益1,009百万円の計上があり、当期純利益の前年比でこの影響がでております。

2024年3月期の連結業績概況(セグメント別業績)

(単位:百万円)	2023年3月期		2024年3月期		対前年比(増減)	対前年比(%)
	実績	構成比(%)	実績	構成比(%)		
売上高	52,354	100.0%	52,986	100.0%	631	101.2%
高校生	28,618	54.7%	27,016	51.0%	△1,602	94.4%
小・中学生	11,573	22.1%	13,214	24.9%	1,641	114.2%
スイミングスクール	9,898	18.9%	9,909	18.7%	10	100.1%
ビジネススクール	1,641	3.1%	2,124	4.0%	483	129.5%
その他	1,873	3.6%	1,939	3.7%	65	103.5%
連結調整※	△1,251	-	△1,218	-	-	-
	実績	利益率(%)	実績	利益率(%)	対前年比(増減)	対前年比(%)
営業利益	5,369	10.3%	4,538	8.6%	△831	84.5%
高校生	5,679	19.8%	4,140	15.3%	△1,539	72.9%
小・中学生	2,786	24.1%	2,532	19.2%	△253	90.9%
スイミングスクール	378	3.8%	537	5.4%	159	142.2%
ビジネススクール	397	24.2%	780	36.7%	382	196.0%
その他	△221	-	269	13.9%	491	-
連結調整※	△3,650	-	△3,721	-	-	-
経常利益	5,071	9.7%	4,323	8.2%	△748	85.2%
当期純利益	4,000	7.6%	2,602	4.9%	△1,398	65.0%

2024年3月期 売上高変動要因

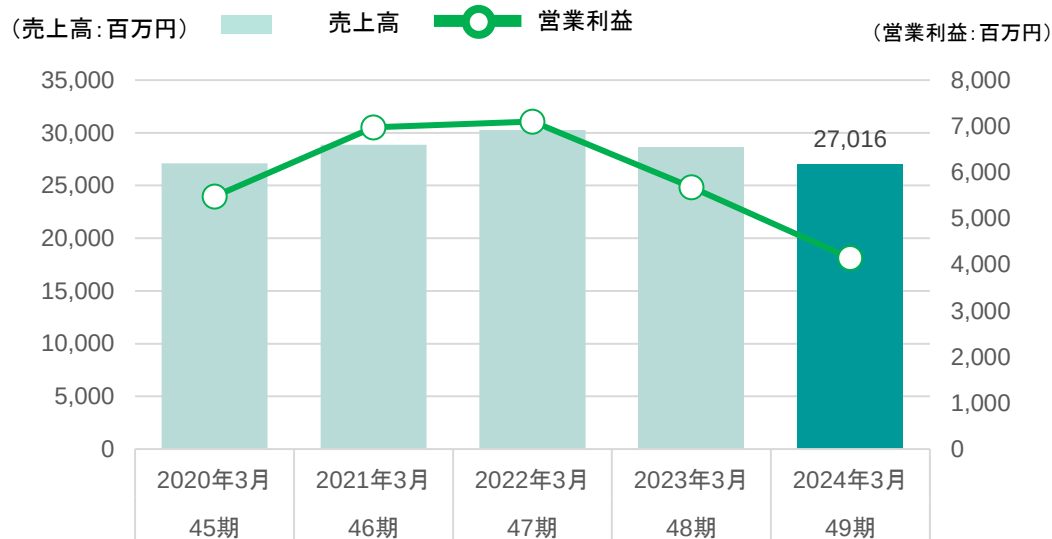
- 高校生部門
 - 前期末募集期の新規入学者数減少と、夏期の生徒募集で低学年の入学数が伸び悩んだことが影響し、前年比**5.6%減**となった。
- 小・中学生部門
 - 2023年1月にグループ会社となったヒューマレッジ(木村塾等)の増加分1,675百万円があったことにより、前年比 **14.2%増**となった。
- スイミングスクール部門
 - 前年あったコロナ休業時の振替売上95百万円の計上がないものの、夏期の募集が堅調に推移し、全体では前年並みとなった。
- ビジネススクール部門
 - 企業向け研修で、新たなる成長分野としてIT・DX研修への取組みを積極的に推進、1Qに大口受注を獲得したことで、前年比**29.5%増**となった。

2024年3月期 利益変動要因

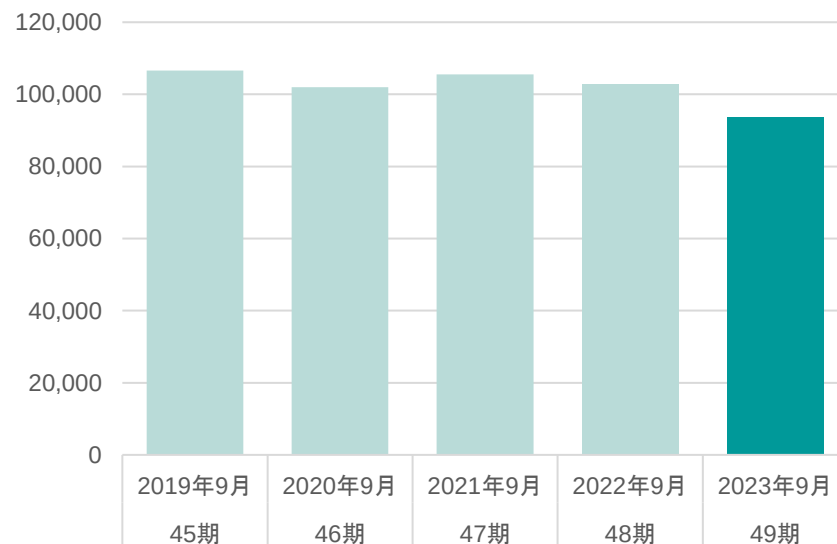
- BS部門の大幅増益の一方で、高校生部門の売上高減少、及び全国統一テストの広告宣伝費による小・中学生部門の減益を主因として、前年比で、営業利益**831百万円減**、経常利益**748百万円減**となった。
- 当期純利益は、前年第1四半期に固定資産売却益10億円の計上があったため、前年比としては**1,398百万円減**となった。

※ 連結調整額にはセグメント間取引消去額、各報告セグメントに配分していない全社費用を含む

業績推移(高校生部門)



生徒数推移(高校生部門) 9月末



今後の取組

- **当社ならではのAI演習プログラム**を進化させ、東大をはじめとする難関大学への合格力をさらに高める。
受験学年では、「志望校別単元ジャンル演習」「最難関4大学特別演習」など、大学毎の入試特性に応じた各人に最適な演習プログラムの提供を通じて高い合格実績を継続。
低学年では、**高2生向けの「個人別定石問題演習」**に加え、**今夏から高1生向け「個人別基礎定着演習」**を英数2科目で**新たに提供し**、受験で問われる思考力や判断力を低学年から鍛える取り組みを強化
- 学校成績の向上を目指す生徒をターゲットにした**「高等学校対応コース」**を3月から設置、個別塾に通塾する生徒や学校推薦・総合型選抜を志向する生徒など、新たな生徒層に訴求し、在籍生徒層の裾野を拡大
- 文科省のDXハイスクール認定など環境変化と新たなニーズを捉え、模試営業部を高校事業本部に改組、高校を対象に、模試だけでなく、「情報Ⅰ」コンテンツやChatGPTを活用した**「英作文1000本ノック」**など、先進的な**DXコンテンツの提供を通じたコンサルティングビジネス**を強化

高校生部門：東進の圧倒的な大学現役合格実績

東大における東進生の現役合格者占有率 (2024年3月実績)

2024年東進
現役合格実績
[3/31締切 最終確定数]

受験を突破する力は未来を切り拓く力!

早慶 223名
5,980名
3,582名
2,398名

京大 493名
21名
493名
24

東大現役合格実績日本一!
東大834名
文科一類 118名 文科二類 115名 文科三類 113名
理科一類 300名 理科二類 121名 理科三類 42名
学校推薦型選抜 25名
現役合格者の36.5%が東進生

私立医・医767名
+40名
1,765名
+55名

国立最難関4大学
1,765名
+55名

上理明青立法中 21,018名
+2,856名

関関同立 13,491名
+4,477名

日東駒専 9,582名
+1,277名

産近甲龍 6,085名
+1,116名

全国有名私大 16,320名
+1,384名

旧七帝大+2 4,116名
+45名

東工大・一橋大 438名
+27.1%

東京工業大 219名
一橋大 219名

旧七帝大+2 4,116名
+45名

国公立大 16,320名
+1,384名

東大25名
+27.1%

旧七帝大+2 392名
+27.1%

東進ハイスクール www.toshin.com

東大現役合格者数、日本一!!
6年連続800名超を達成!

3/31締切最終確定数

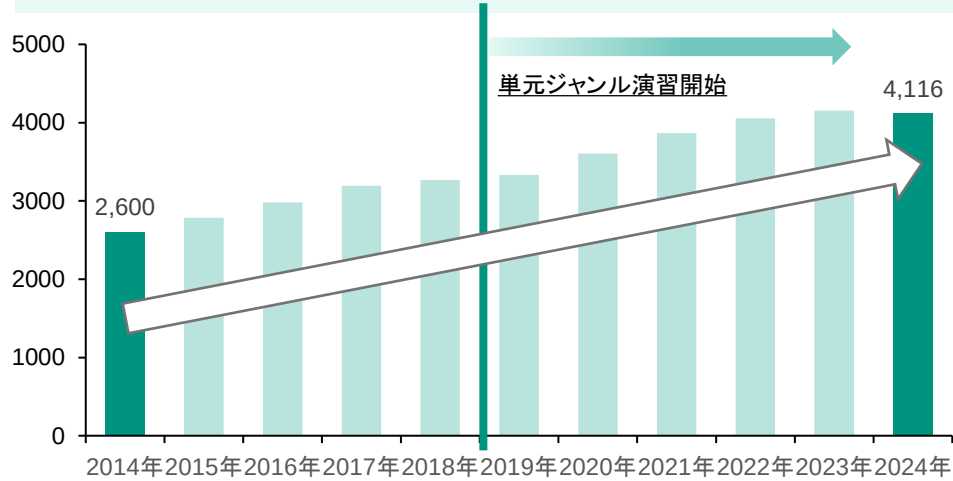
東大834名

東進生現役占有率 36.5%

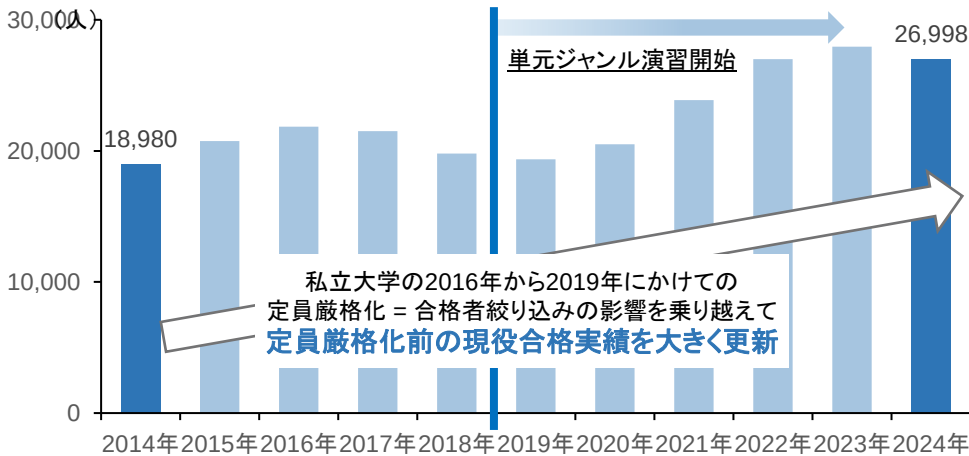
東大現役合格者の2.8人に1人が東進生!!

文科一類 118名
文科二類 115名
文科三類 113名
理科一類 300名
理科二類 121名
理科三類 42名
学校推薦型選抜 25名

旧七帝大 + 2(東工大 + 一橋大) 現役合格実績推移



早慶 + 上理明青立法中 現役合格実績推移 ※上理明青立法中 = 上智・東京理科・明治・青山学院・立教・法政・中央



※ 東進生現役占有率: 全現役合格者(前期+推薦)に占める東進生の割合、2024年東大現役合格者は2,284名、東進の現役合格者は834名。

高校生部門：合格実績の推移

No	国立大	2024	2023	2022
1	東京	834	845	853
2	京都	493	472	468
3	北海道	450	468	438
4	東北	389	417	372
5	名古屋	379	436	410
6	大阪	646	617	617
7	九州	487	507	437
小計	旧七帝大	3,678	3,762	3,595
8	東京工業	219	198	211
9	一橋	219	195	251
合計	旧七帝大+2	4,116	4,155	4,057

■ 史上最高 ■ 史上2番目

No	私立大	2024	2023	2022
1	早稲田	3,582	3,523	3,412
2	慶應義塾	2,398	2,218	2,266
小計	早慶	5,980	5,741	5,678
3	上智	1,605	1,739	1,488
4	東京理科	2,892	2,948	2,805
5	明治	4,949	5,294	5,351
6	青山学院	2,154	2,216	2,111
7	立教	2,730	2,912	2,646
8	法政	3,833	4,193	3,848
9	中央	2,855	2,905	3,072
小計	上理明青立法中	21,018	22,207	21,321
10	関西学院	3,139	2,861	2,621
11	関西	2,776	2,918	2,752
12	同志社	3,099	3,178	2,806
13	立命館	4,477	4,698	4,454
小計	関関同立	13,491	13,655	12,633
合計	13大学合計	40,489	41,603	39,632

AIをはじめとした最先端の技術を投入することで指導はまだまだ進化する

2018年よりAIを活用した指導を開始 今年高校3年間のAI指導体系が完成
これまでは不可能だった個人に合わせた学習がAIを活用することで実現できるようになった

高3生対象(2018年開始)
志望校別単元ジャンル演習
第一志望校対策演習

志望校対策



高2生対象(2022年開始)
個人別定石問題演習

入試典型問題



高1生対象(2024年開始)
個人別基礎定着演習

基礎の徹底



「100万人いれば100万通り」一人一人のための「個別」の学習ができる

最も大切なこと＝取り組む「心」を育むこと

「受験は人生の中間地点」

生徒の自発的な力を引き出して 人間として大きく成長させる指導を行っています

君の未来を考えるセミナー

志作文コンクール



コーディア・セラピューティクス
株式会社 CSO
森下大輔 先生



ボーダレス・ブルキナファソ
代表取締役社長
原口瑛子 先生



トップリーダーと学ぶワークショップ

未来発見講座



高校生部門:2024年3月 新たなコース「高等学校対応コース」を開講



キミの高校に対応

新登場!

難関大現役合格実績 **日本一**の東進が
高校の成績アップに本気の挑戦!



目指せ!
「定期テスト」
20点アップ!

高等学校対応 コース

対象: 高2生・高1生

「先取り」で
学校の勉強が
よくわかる!



キミの高校に対応

高校の成績
を伸ばしたいキミへ

目指せ!「定期テスト」**20点アップ!**



東進で定期テストの得点急上昇

20点以上UPが続出!

受講者^{*}の**81.1%**が10点以上成績アップ!

自分の学力と学校での教材をもとに適切な学習内容を提示

高校生部門:2024年4月 新たなコース「高等学校対応コース」を開講

① 自分の高校で使用している教科書・傍用問題集を登録

高等学校対応コース

Step1. 教科書・参考書/問題集を選択して保存 Step2. 過去の試験日程を登録して保存
Step3. Step1で登録した教科書・参考書/問題集から、試験範囲(ページ)を登録して保存 → 試験までにどの項目を登録すべきが自動でレコメンド。右上の「高等学校対応コースTOP画面へ」をクリック

2024

教科書 参考書/問題集 試験日程・点数 試験範囲 保存

学年 高1

教科	科目	出版社	教科書名
英語	英語コミュニケーションⅠ	選択	選択
	英語コミュニケーションⅡ	選択	選択
	英語コミュニケーションⅢ	選択	選択
	論理・表現Ⅰ	選択	選択
	論理・表現Ⅱ	選択	選択
	論理・表現Ⅲ	選択	選択

科目

英語コミュニケーションⅠ

+

選択

教科書

出版社

教科

数学C

+

選択

出版社

② 定期テストごとに試験範囲・得意不得意を登録

教科	科目/カテゴリ	教科書名/参考書名	試験範囲	範囲追加
英語	英語コミュニケーションⅠ	All Around English Communication 1 (令和2年度)	p 14 ~ p 37	- +
	英文法	Vintage 英文法・語法 3rd Edition	p 10 ~ p 20	- +
	論理・表現Ⅰ	Vision Quest English Logic and Expression 1 (Advanced) (令和2年度)	p 7 ~ p 34	- +

得意/不得意

試験範囲

範囲追加

教科

数学

p 14 ~ p 37

- +

p 10 ~ p 20

- +

p 7 ~ p 34

- +

試験範囲	範囲追加
p 8 ~ p 50	- +
p 6 ~ p 41	- +

「基礎学力診断テスト」の結果や教科書・傍用問題集と定期テストの試験範囲の情報を
もとに、テストまでに取り組むべき授業・演習をシステムが自動的に提示。仮に試験範囲
が同じ単元でも、使用している教材や学力に応じて提示される学習内容は異なる。

学習項目を英語約200項目、数学Ⅰ・A約450項目に細分化
中学範囲の復習から 講義15分＋演習15分で着実に力をつけていく

高校生部門: 2024年4月 新たなコース「高等学校対応コース」を開講

これまで



これから



東京大学をはじめ
トップから入り
上位指導



高等学校での学習
に苦戦する生徒の
学力向上

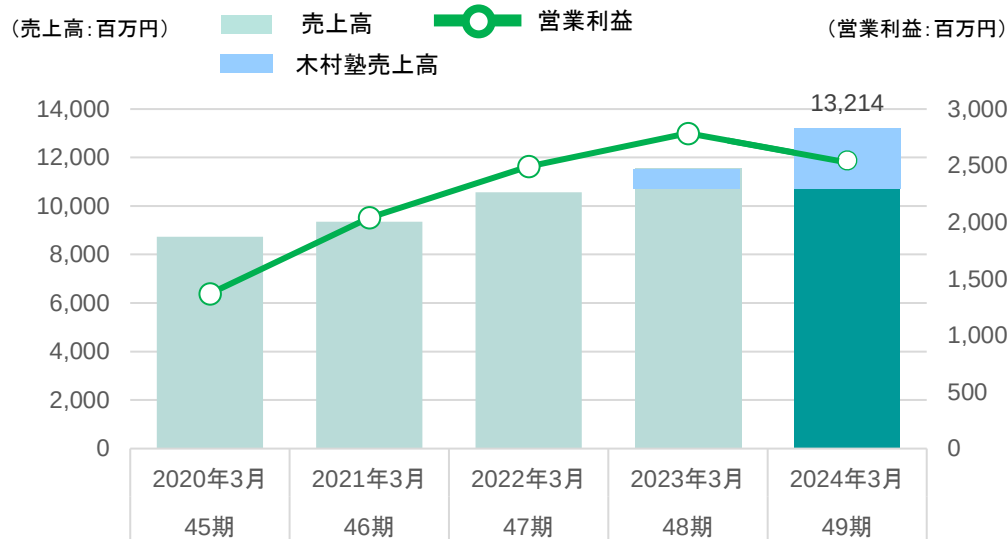
コース毎の在籍者の高校レベル*占有率
(大学受験コースと高等学校対応コース)

* 高校レベル=当社で合格実績の区分毎に設定したレベル

No	高校レベル	高校数	大学受験コース	高等学校対応コース
1	最上位/上位	266高校	39.6%	9.0%
2	中上位	753高校	43.1%	44.2%
1+2	小計(最上位～中上位)	1,019高校	82.7%	53.2%
3	中位以下	3,850高校	17.3%	46.8%

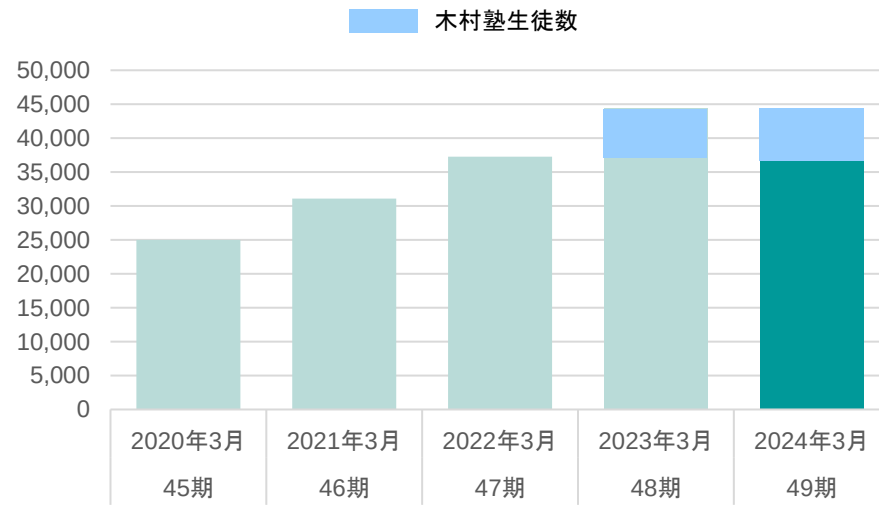
現状のマーケットの約4倍の新たなマーケットから生徒が集まりつつある

業績推移(小・中学生部門)



※23年3月期木村塾
売上・営業利益は4Qのみ

生徒数推移(四谷大塚生+木村塾) 3月末



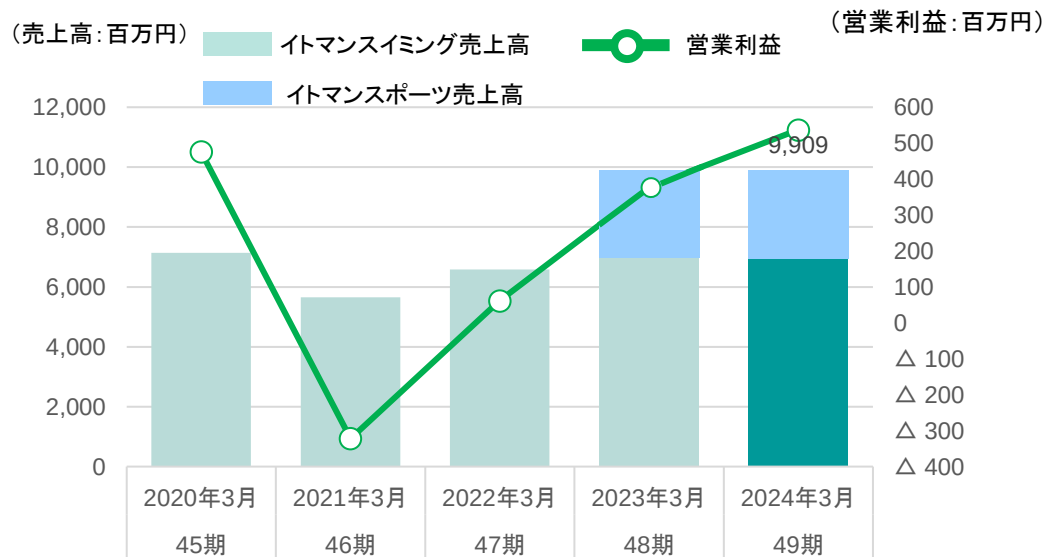
今後の取組

- 兵庫・大阪地区で「絶対に生徒を見捨てない塾」として、幅広い学力層の生徒指導に定評あるヒューマレッジ(木村塾他)のグループ化により、**これまでと異なる地域、生徒層への拡大**が可能に。
今後、ヒューマレッジの新規校舎展開を進めるほか、グループ全体でも同社の**ノウハウを共有し、生徒指導の深化**を実現。
- 四谷大塚では、生徒指導体制を整備し、より**生徒ひとりひとりに寄り添った学習指導**を進めることで、学力向上の実現と生徒・父母の信頼回復に努めることで、引き続き堅調に推移する首都圏中学受験市場にあって、生徒数増を果たす。

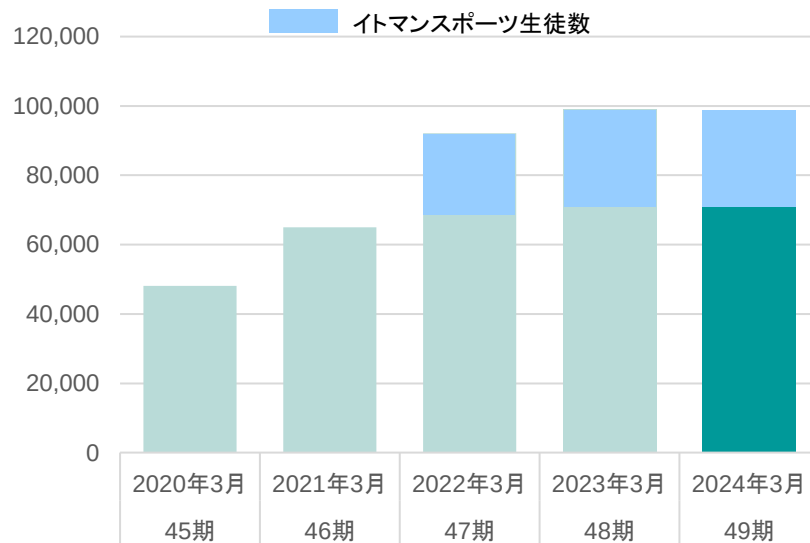
スイミングスクール部門



業績推移(スイミングスクール部門)



生徒数推移(スイミングスクール部門) 3月末 ※休会除く



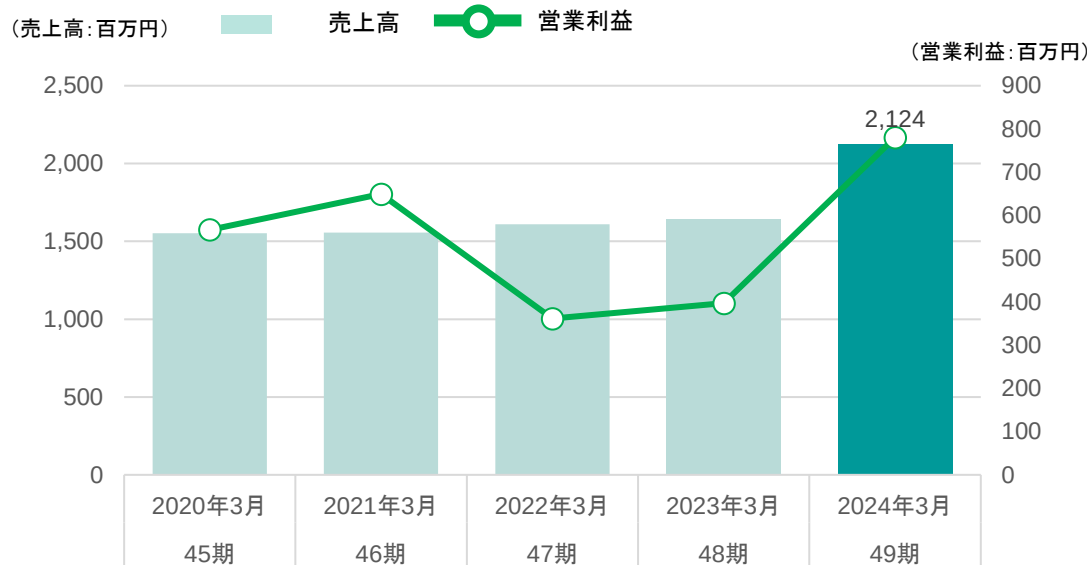
今後の取組

- 生徒数では、コロナ期の落込みからの回復基調が継続、休会率もコロナ前の水準まで改善しているほか、2023年2月開校の千葉県柏の葉校舎も開校1年目から好調に推移。
- 公立小・中学校からの水泳受託事業の拡大やこれに伴う入会増に加え、ヘルスケアなどシニア向けビジネス、水泳以外のスポーツ種目(ダンスなど)への拡大を非店舗型で実施する取り組みなど、成長への新たな取組みを積極的に推進。

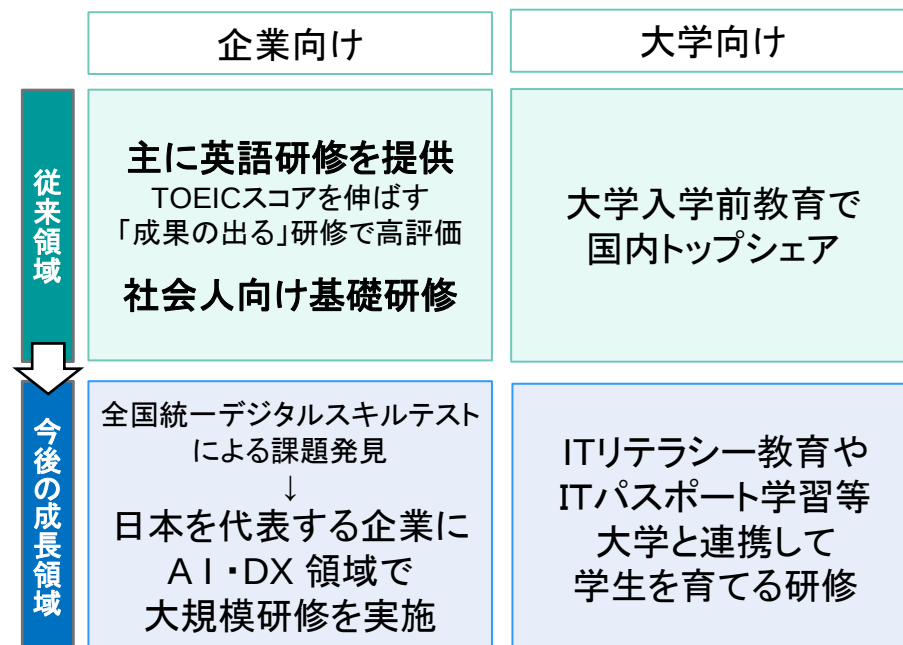
<公立小・中学校からの水泳受託事業数の推移>

2021年度9校⇒2022年度16校⇒2023年度32校⇒2024年度76校まで拡大予定

業績推移(ビジネススクール部門)



ビジネススクール部門の事業領域の拡大



今後の取組

- 企業や大学のITリテラシー教育需要の急速な拡大を捉え、成果に直結するコンテンツ・研修指導を通じて、近い将来、**本部門をコア部門(売上100億円規模)へと成長させる。**
- 企業事業部では、6月の「**全国統一デジタルスキルテスト**」の試行などを通じて、企業側のニーズを捉え、カスタマイズした講座提供を行うことで、質の高いIT・DX教育をサポート。さらに、UCバークレーなど米国のデジタル領域でのトップ大学と連携することで、**高度AI人財の育成事業**への取組も強化。
- 大学事業部では、入学前教育に加え、近時のDX系学部新設などITリテラシー教育の需要増を捉え、ITパスポート取得講座などの新たなコンテンツ提供を積極的に推進。

ビジネススクール部門:企業に対してオーダーメイドの研修を提供

2024年6月「全国統一デジタルスキルテストを立上げ」

【意識変革】 企業経営層向けセミナー

- エグゼクティブAIセミナー
- 企業別カスタマイズセミナー



【DX診断・課題の可視化】 全国統一デジタルスキルテスト

- DXリテラシーレベルを可視化
- DX推進人財候補を可視化
- 人材育成・配置戦略策定を支援

全国統一デジタルスキルテスト



【ソリューション提供】 東進デジタルユニバーシティ講座

- 東進オリジナル講座
- 企業別カスタマイズ講座
- カリフォルニア大学バークレー校
リーダー養成講座



企業のニーズにお応えするように研修をカスタマイズして提供
(大学に対してはITリテラシー/ITパスポート取得などの学生指導の提案)
より多くの社会人をデジタル人財へと育成する支援を行っていく

今後 中核事業・第四の柱として育ててまいります

ご紹介:文科省のデジタル関連の教育の拡充について

「数理・データサイエンス・AIモデルカリキュラム」の改訂と認定制度の運用について (文部科学省 高等教育局専門教育課 作成資料 (2024年3月) より抜粋)



文科省は
小中高のデジタル環境整備に
約5年で6000億～8000億円
を投じる方針

※ご参考:DXハイスクール指定要件
2026年度までに「情報Ⅱ」を設置して、
2割以上の生徒の受講を目指すこと
(情報Ⅱ:プログラミング等を学ぶ発展的な科目)

初等中等教育段階から始まるデジタル関連教育

小中学校 (2020年～)



コンピュータの基本的な操作や論理的思考力を身に付ける「**プログラミング教育**」の必修化・拡充
※GIGAスクール

高校 (2022年～)



プログラミングのほか、ネットワーク（セキュリティ）やデータベースの基礎等を学び、問題の発見・解決を行う「**情報Ⅰ**」の必修化
※DXハイスクール

大学・高専 (2020年～)



文理を問わず、全学部の学生が基礎的・実践的な能力を育成する「**数理・データサイエンス・AI教育**」の推進
※MDASH認定制度
※コンソーシアム

社会人 (2022年～)



全てのビジネスパーソンが身に付けるスキル「**DXリテラシー標準**」とDXを推進する人材定義「**DX推進スキル標準**」を展開

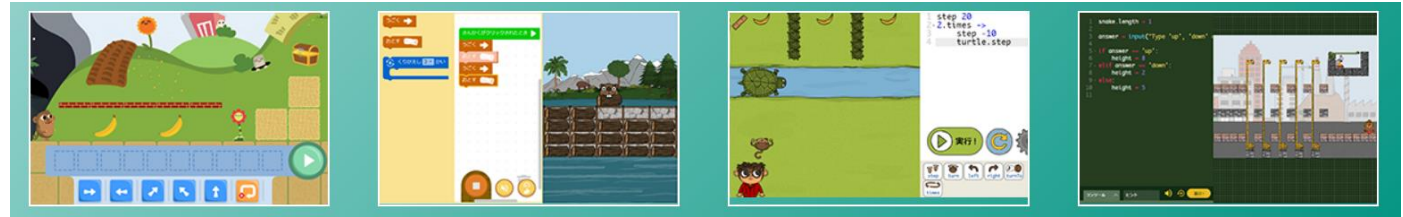
小中部門：東進コードモンキー、高校生部門：DXハイスクール



世界で2,500万人が学ぶ世界標準の教材
基礎からPythonまでスモールステップで身に付く



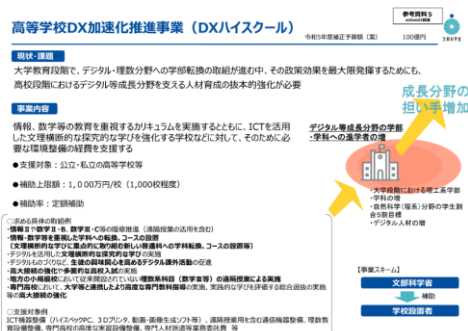
1000項目を通じて
段階的に本格的な学習



※ CodeMonkeyは全米の教育者の評価により選ばれるEducators pick - Best of STEM 2023”を受賞

高校生
部門

文科省の高等学校DX加速化推進事業＝DXハイスクール支援が開始
予算規模・年100億円(1校1,000万円・1,010校を採択)



DXハイスクールの指定要件

- ①2026年度までに「情報Ⅱ」を設置し、2割以上の生徒の受講を目指す
(情報Ⅱ：プログラミング等を学ぶ発展的な科目)
- ②3Dプリンターなど高度な設備を整え、
ICT(情報通信技術)を活用した文理横断的・探究的な学びに取り組む

デジタル人財を育成するために高校と連携した講座提供に取り組んでいきます

2025年3月期の連結業績予想

(単位: 百万円)	2024年3月期		2025年3月期		対前年比(増減)	対前年比(%)
	実績	構成比(%)	計画	構成比(%)		
売上高	52,986	100.0%	54,629	100.0%	1,643	103.1%
高校生	27,016	51.0%	27,711	50.7%	695	102.6%
小・中学生	13,214	24.9%	13,229	24.2%	15	100.1%
スイミングスクール	9,909	18.7%	10,288	18.8%	379	103.8%
ビジネススクール	2,124	4.0%	2,650	4.9%	526	124.8%
その他	1,939	3.7%	1,969	3.6%	30	101.5%
連結調整※1	-1,218	-	-1,218	-	-	-
	実績	利益率(%)	計画	利益率(%)	対前年比(増減)	対前年比(%)
営業利益	4,538	8.6%	5,526	10.1%	988	121.8%
経常利益	4,323	8.2%	5,236	9.6%	913	121.1%
当期純利益	2,602	4.9%	3,236	5.9%	634	124.4%

※1 連結調整額にはセグメント間取引消去額を含む

2025年3月期 売上高計画要因

- 高校生部門
 - 前年第4四半期から入学者数が回復基調になってきたこと、また、当期新たに設置する「高等学校対応コース」による増収効果を勘案し、前年比**2.6%増**とした。
- 小・中学生部門
 - ヒューマレτζは生徒数増加が見込まれるものの、四谷大塚の足元の生徒在籍数を勘案し、前年同水準とした。
- スイミングスクール部門
 - 足元の生徒数回復傾向の継続と学校受託事業など新規事業の増収効果を反映し、前年比**3.8%増**とした。
- ビジネススクール部門
 - 大学向けでは入学前教育、企業向けでは語学、ビジネス教養分野の既存分野に加え、DX・ITリテラシー教育の需要増を捉えた新分野での講座提供を見込み、前年比**24.8%増**とした。

2024年3月期利益計画要因

- 営業利益
 - 各部門の増収効果と既存経費の前年同水準でのコントロールにより、前々期(第48期)実績並の利益率まで回復することを見込み、前年比**21.8%増**とした。
- 当期純利益
 - 会社別の営業利益、経常利益を元に税金費用を見積もり、前年比**24.4%増**とした。

株主還元

- 当社は、事業の成長また経営基盤強化など、事業展開を進めるうえで必要な内部留保を確保し、財務の健全性を維持するとともに、業績に応じた株主への利益還元を行うことを利益配分の方針としております。

	2015年3月	2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月	2020年3月	2021年3月	2022年3月	2023年3月	株式分割 1株↓3株	2024年3月	2025年3月 (予想)
配当 (円)	100	130	130	130	130	130	130	200	300		100	100
配当性向 (%)	44.3%	35.8%	45.1%	44.2%	113.4%	39.1%	47.0%	51.0%	65.8%		101.2%	81.4%

当社は2023年4月1日付で1株につき3株の割合をもって株式分割を実施いたしました。これにより、発行済株式数は30,445,227株となり、「2023年3月期決算短信」以降の開示文書では、1株あたりの各数値は換算値で表示されております。(例:配当300円→100円)

「スタンダード市場選択」に伴う対応

- 東証新市場区分「スタンダード市場」の上場維持基準への適合に向けて、流通株式比率の改善に取り組みました。
- 流通株式比率は、2023年4月の株式分割、2023年9月の株式売出しの効果があり、2024年3月期末の基準日時点で **25.8%**（前期末判定基準日比10.6%改善）となり、**全ての適合基準を満たしております**。
本件については、2024年4月26日付で「スタンダード市場上場維持基準への適合に関するお知らせ」で公表しております。

※ 2024年3月31日時点

	株主数	流通株式数	流通時価総額	流通株式比率
当社の状況	7,668人	78,829単位	160億円	25.8%
上場維持基準	400人	2,000単位	10億円	25.0%
適合状況	○	○	○	○

お問い合わせ先

常務取締役 総務本部長 内海 昌男

TEL: 0422-45-7011

WEBサイト: <https://www.toshin.com/nagase/>

本資料における留意点について

本資料は、当社の事業、業績等に関する一般的な情報提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券に対する投資の勧誘を目的としたものではありません。

本資料には、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいた当社独自の業績予測や将来の見通しが含まれており、当社はその正確性や完全性を保証または約束するものではありません。

判断や仮定に内在する不確実性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が計画と異なること、計画が予告なしに変更されることがありますので、予めご了承ください。

Appendix.

株式会社 **ナガセ** 一人財育成企業

東進ハイスクール
東進衛星予備校

早稲田塾

でてこい。未来のリーダーたち。
四谷大塚



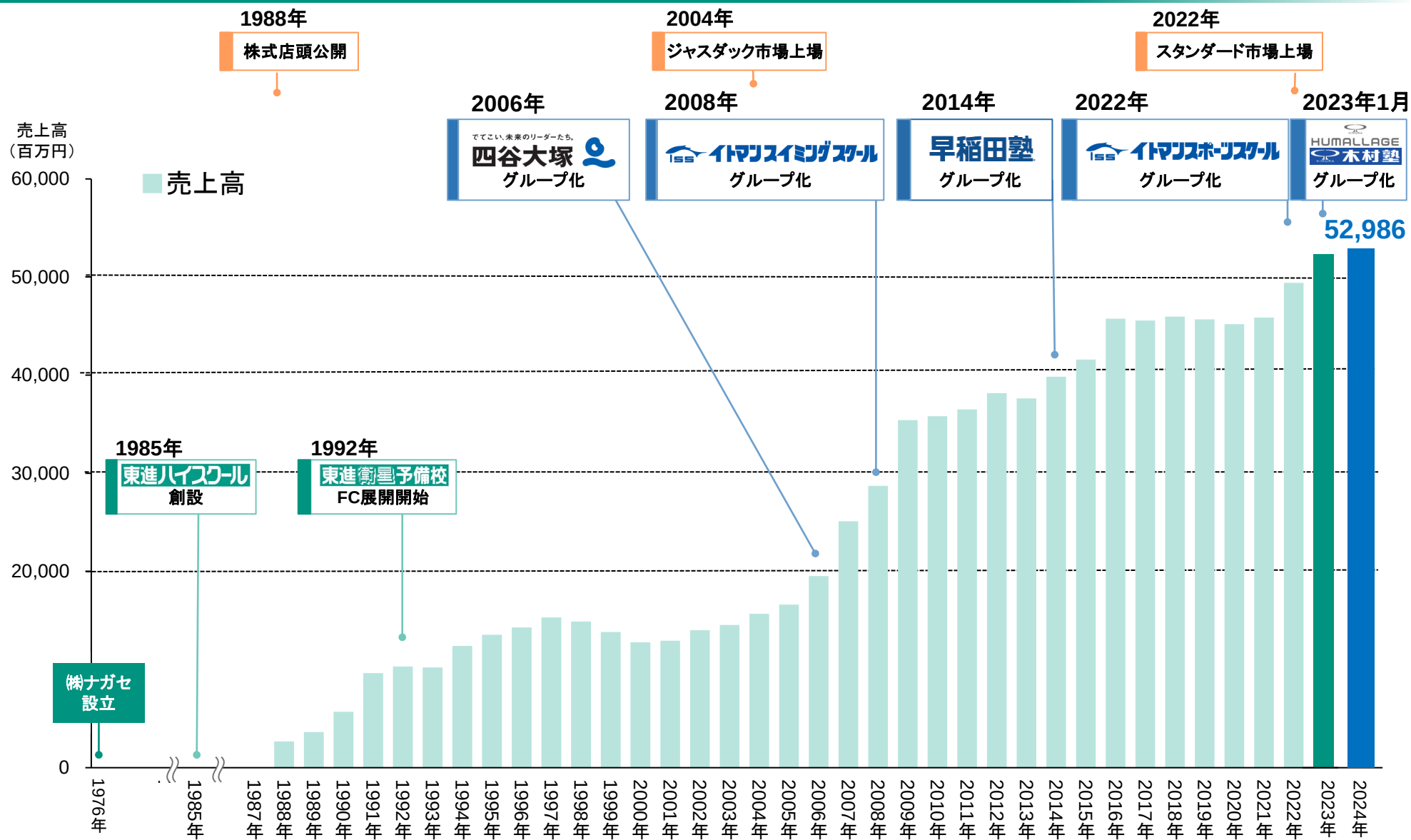
ITマシニングスクール
ITマシホ-スクール

木村塾

東進ビジネススクール

TD TOSHIN
DIGITAL
UNIVERSITY

ナガセ成長の軌跡



※ 財務数値は各年3月期の数値を示す

2019年3月期~2024年3月期

四半期連結決算業績概況

- 当社の事業は、受験や進級・進学シーズンを節目に、季節性を有します。
- 新学年の開始時期である第1四半期は費用が先行し赤字となるケースも多く、その後第2四半期以降、特に生徒数がピークを迎える第3四半期・第4四半期に売上・利益ともに増加するという季節的な変動があります。

	2019年3月期				2020年3月期				2021年3月期				2022年3月期				2023年3月期				2024年3月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	8,449	11,209	13,054	12,968	8,957	11,180	12,879	12,164	7,744	10,759	13,497	13,851	9,996	12,131	13,715	13,561	11,065	13,133	14,343	13,812	11,691	13,706	14,184	13,405
営業利益	-1,962	1,121	2,218	1,288	-404	1,627	2,166	1,186	-1,233※	903	2,868	1,603	114	1,539	2,339	1,597	400	2,045	2,544	380	-169	1,599	2,317	790
経常利益	-1,948	1,074	2,164	1,106	-487	1,542	2,127	1,068	-1,292※	807	2,764	1,782	91	1,385	2,253	1,423	399	1,897	2,439	335	-138	1,468	2,283	709
親会社株主に帰属する四半期純利益	-1,425	442	1,497	502	-321	1,060	1,470	716	-917	559	1,954	830	76	951	1,558	854	937	1,315	1,629	117	-150	847	1,463	442

※ 2021年3月期の連結営業利益および連結経常利益は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う営業停止により発生したスイミングスクール部門における損失450百万円を特別損失に振り替える前の数値を掲載

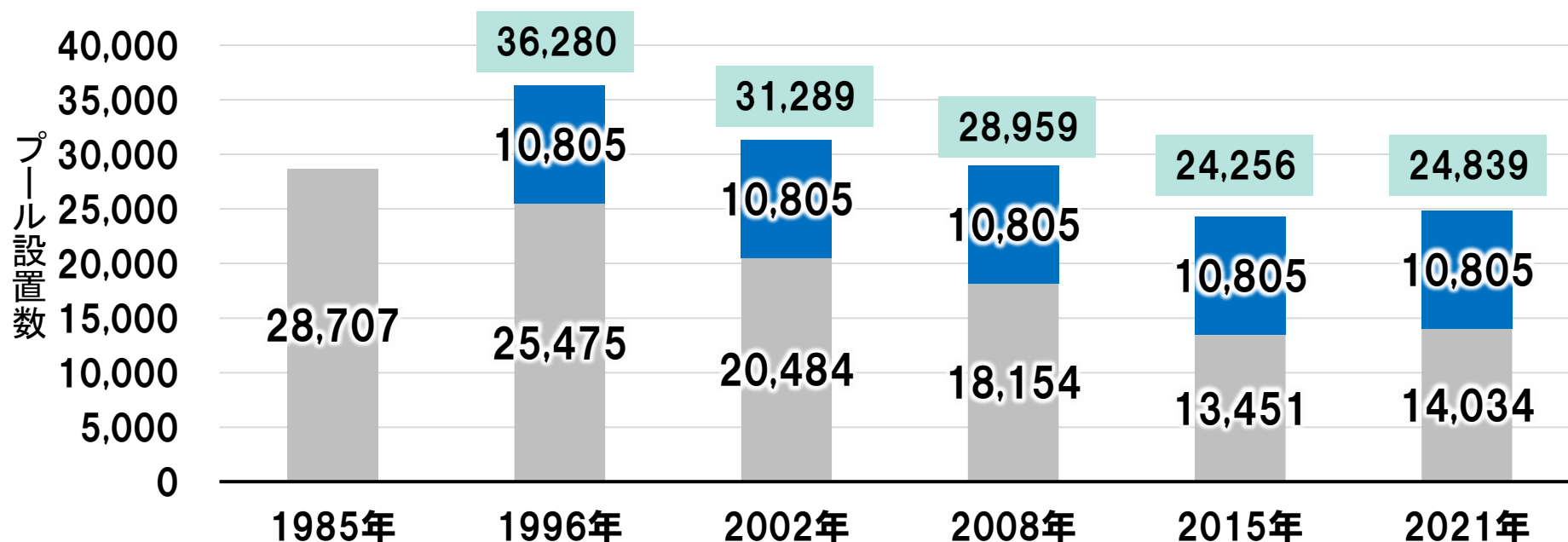
今後の発展について:水泳授業の外部委託が進んでいます

学校のプールの老朽化に伴って水泳授業委託・指導員派遣などのニーズが高まっている

小・中・高におけるプールの設置数推移

出典: 文部科学省 体育・スポーツ施設現況調査

■ 1985年から1996年に増設されたプール数



1985年から1996年にかけてプールが大きく増えた
多くのプールが今後耐用年数を迎える(プール耐用年数は30～40年)

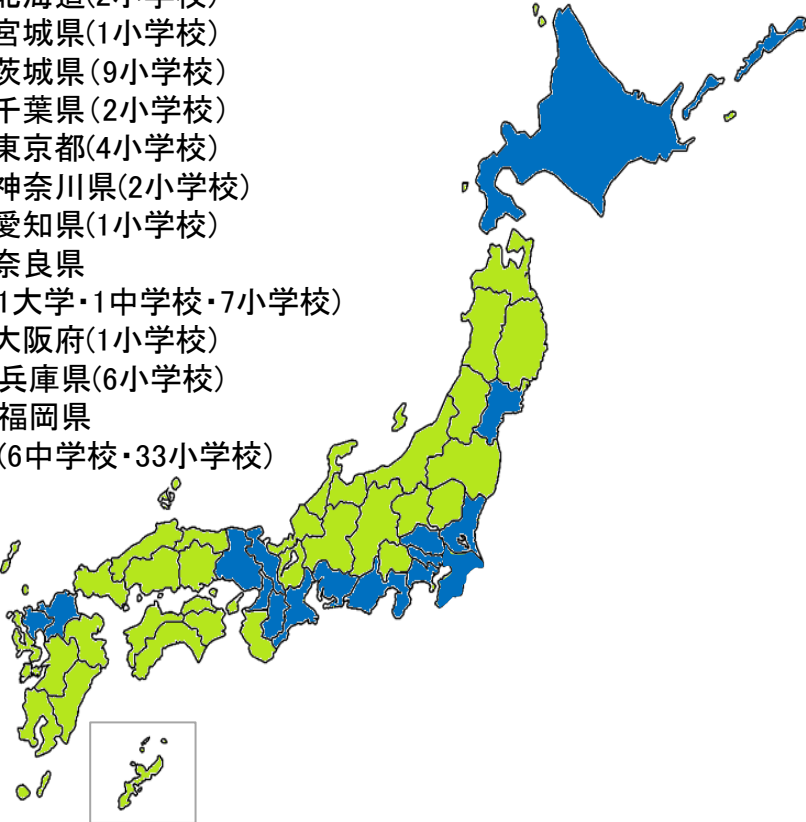
今後の発展について:水泳の授業受託には大きな可能性がある

イトマン校舎＝全16都道府県 まだまだ大きなマーケットが全国にある

■ ... イトマンスイミング＋イトマンスポーツ
校舎がある地域(16都道府県)

現在、76の学校で授業を受託

- 1 北海道(2小学校)
- 2 宮城県(1小学校)
- 3 茨城県(9小学校)
- 4 千葉県(2小学校)
- 5 東京都(4小学校)
- 6 神奈川県(2小学校)
- 7 愛知県(1小学校)
- 8 奈良県
(1大学・1中学校・7小学校)
- 9 大阪府(1小学校)
- 10 兵庫県(6小学校)
- 11 福岡県
(6中学校・33小学校)



	小学校		幼稚園 ＋認定こども園	
	設置数	児童数	設置数	児童数
全国	19,161	6,151,305	15,768	1,744,706
16都道府県計	10,558	4,072,046	9,210	1,142,992
1北海道	966	227,372	644	70,293
2宮城県	367	111,148	311	33,164
3茨城県	451	132,729	378	40,268
4埼玉県	806	359,989	625	96,231
5千葉県	759	303,407	586	79,593
6東京都	1,327	624,426	1,014	130,036
7神奈川県	882	446,637	775	113,692
8静岡県	500	180,387	631	64,370
9愛知県	968	401,581	634	98,923
10三重県	366	88,413	225	20,221
11京都府	365	118,394	332	36,883
12大阪府	986	416,847	1,214	162,231
13兵庫県	742	275,186	993	101,476
14奈良県	190	63,595	237	21,272
15福岡県	720	278,438	483	60,922
16佐賀県	163	43,497	128	13,417

出典：文部科学省 令和4年度学校基本調査